

概 要

今年は瀬戸内国際芸術祭開催の翌年にあたり、観光業界においてとても大切な1年と言えます。芸術祭が開催されない年であるからこそ継続的な集客と地域の連携が保てるよう、以下のことを内外に推進し発信します。

一つ目は4月1日から6月30日まで開催される四国ディスティネーションキャンペーンの成功に向けて邁進いたします。ディスティネーションキャンペーンとは **Destination** (目的地) と **Campaign** (宣伝) を組み合わせた造語で全国のJRグループ6社と地方自治体や観光関係団体が協力して実施する、国内最大級の大型観光キャンペーンです。期間中は旅行会社などによる四国4県への旅行商品造成の強化と集中宣伝により送客が期待されます。キャンペーンのテーマである「学」、「観」、「遊」、「心」、「食」を念頭におき、前回開催の平成15年より更に小豆島が一体となって受け入れを強化する必要があります。

二つ目は昨年2月23日に行政、民間、団体が三位一体となり発足した小豆島観光国際化チームの活動の場を広げてまいります。平成28年の小豆島内における外国人延べ宿泊者数は36,151人(平成27年は19,483人)と大幅に伸び更なる受入充実のためにも国際化は喫緊の課題であり、また大切な事業と捉えております。小豆島観光国際化チームは発足後より月に1度開催している「YOKOSO SHODOSHIMA 英会話セミナー」をはじめ、昨年の瀬戸内国際芸術祭2016開催期間中の週末には各港にて英語による観光案内をおこないました。その後は二十四の瞳の紙芝居を日英2言語化し上演しています。小豆島に住む私たちが小豆島のことを学び、スキルアップの機会をつくることを目的として開催している「まるごと小豆島セミナー」と同様に地道な勉強会と活動を継続しておこないます。今後は迷路のまち歩きガイドや寒霞溪ウォーキングガイドを英語でおこうなど、地域の活性化とグローバルな発信を目指し活動の輪を広げてまいります。

三つ目は小豆島観光協会の担う小豆島フィルム・コミッション業務の遂行です。今年2月に撮影された映画「8年越しの花嫁」は次の正月映画として全国公開されます。本編の信じる力が生み出した奇跡の実話と共に島内の美しい風景などがスクリーンに映し出されます。特に今回の映画では農村歌舞伎舞台での撮影において地元住民の皆様ほか約500人に歌舞伎の上演やエキストラとしてご協力いただきました。まさに地元の熱意による作品と言えます。今年もそのほかテレビ、ラジオ、新聞、雑誌など幅広いメディアの取材に対応し小豆島の魅力を国内外に発信します。

昨今の団体旅行から個人旅行へ移行している旅行形態の変化やインバウンド客の増加など小豆島を取り巻く観光の動きを強く感じます。このようなそれぞれの新たなニーズに応えるべく、小豆島観光協会はこの島の持つ比類ない産業や文化と観光を繋げ、この島のオリジナリティ溢れるプログラムを構築しPRしてまいります。今年度も関係各位のご協力ならびにご支援をお願い申し上げます。